



① 薬剤師として、人の命を救う

大皿 景子

私が、薬剤師になろうと思ったのは、医師である父の影響でした。人の役に立ちたい、父のように人の命を救えるようになりたいそう思ったのが、はじめてでした。

では、なぜ医師にならなかったのか？と問われれば、正直にお話すれば、医師になるためには学力が足りませんでした。それでも、どうしても命に関わる仕事を諦めることが出来ずにいた時、恩師から薬剤師を目指してみようか？と助言をされました。

薬剤師としての仕事をこの時は、あまりしっかり把握していませんでした。恩師に進められるまま、4年生の大学に通い、国家試験に合格し、薬剤師となりました。現在は、薬剤師も6年生の大学に通わないと国家試験の受験資格がありませんが、当時はまだ4年生で大丈夫でした。薬学部のある大学は、国公立・私立と多数あるため、大学選びは困りませんでした。理系が得意だったので、大学の勉強自体はとても楽しいものでした。専門分野の座学や、実務実習などたくさんの事を4年間で学びました。国家試験は、やはり難しく試験勉強はとても大変でした。

私が、薬剤師として働き出して、今年で17年になります。薬剤師は、医師のように直接患者さんの体を見るわけではありません。しかし、医師とは、違うアプローチで患者さんに接し、患者さんがより良い生活を送るため、毎日を前向きに生きていくための手助けができると思っています。患者さんが、私と話すことで、笑顔で帰って行かれるのを見ると、直接病気を治すことはできなくとも、患者さんの心を軽くする役には立っているのではと思えるようになりました。

ここで、薬剤師としての仕事の1部をご紹介します。みなさんの中では、薬局でお薬を渡す人というイメージが強いのではないかと思います。確かに、それも薬剤師の仕事の一つですが、それ以外にも薬剤師として活躍できる場は、多方面にわたり、あります。

最も一般的な仕事は、薬局や病院に勤め、医師の処方箋に従って薬を調剤し、患者さんに渡します。渡す際には、正しい服用法を指導し個々の患者ごとに薬剤使用記録をつけるといったことも重要な仕事の一つです。また、病院や薬局において、医師や看護師に対し薬の適正な使用方法について助言を行います。

また、医薬品の開発メーカーで、新薬の研究・開発・実験などに携わることもできます。それ以外には、血液センターや大学での研究や、国や都道府県の職員として色々な検査などを行う仕事もあります。

昨今高齢化社会が問題視されていますが、高齢化社会における薬剤師の役割が重要視されています。患者さんが薬局に赴くのではなく、私たち薬剤師が自宅へ訪問し、毎日の健康管理などを医師や看護師や介護士とともにしています。私自身も、ほぼ毎日、薬局内の業務以外に外部での仕事を行っています。

薬剤師は、最初に目指した人の命を直接救う仕事ではありませんでしたが、いまではこの仕事に誇りを持ち、毎日を過ごしています。薬剤師を目指すよう言ってくれた恩師には、とても感謝していますし、これからも、薬剤師としてもっとステップアップしていきたいと考えています。

最後になりましたが、皆さんの将来に、私の話が少しでも役に立てればという思いで、今回執筆させていただきました。みなさんの将来がすばらしいものになりますよう、お祈りしています。



② 未来の賜物を育む保育教諭という仕事

高校生保護者

皆さんは『保育教諭』という仕事、あまり聞き慣れないですよ。子ども園に勤める人の事です。

仕事や介護等で日中子どもを見られない家庭の子どもを預かるのが保育園、就学前の子が通うのが幼稚園で合わせた施設で働くので二つの資格を合わせ持つ資格になります。沢山の異年齢児が通うのでいつも賑やかだし、一人っ子も赤ちゃんから居るので異年齢交流のおかげで楽しく過ごしています。

一〜二歳の子ども達も赤ちゃんが大好きでお世話をしたり、見ていて微笑ましいです。

仕事は食事、排泄、着替えは勿論、製作やリトミックにスイミング等毎日やる事がいっぱいです。

私の勤務する子ども園では食育で茄子やリンゴ、枝豆等、育てた物はクッキングしてオヤツで食べています。輪切りにしたトウモロコシは、家庭であまり食べないので良い体験です。自分で育てると食べられる様になりますが、嫌な時は根気強く、付き合います。

稲刈りでは田植えしたり、年配者を招いて稲穂でしめ縄と一緒に作ったりします。饅飴作りもするので買うだけでない、作る喜びも味わえます。日本文化に触れる事は、法律で定められています。

何でも買える時代だからこそ、自分たちで育て作り頂く。調理もして感謝の気持ちを育てています。小さな子ども達も年長が作るので尊敬の眼差しで見られてエヘンと得意げな顔になります。見ていて私達も誇らしく感じられます。

昆虫や蝶も育てます。蛹から蝶になり、羽ばたく様子は絵本や図鑑では味わえない体験で臨場感溢れ大人もウキウキします。教科書で学ぶ前に体験すると理解しやすいし楽しいです。

皆さんも子どもの頃のキラキラした思い出があると思います。そういう思い出作りが出来る様に工夫をこらしています。

今は昔の様に預ける事が出来る場や相談の場も少ないです。身内も居なく（孤育て）家庭も増加しています。又、発達に問題を抱える家庭も多く、相談の場も子ども園にあります。

子ども園は赤ちゃんから居ますので特に注意しています。表情や体に傷が無いチェックして虐待予防するのは勿論ですが発達に遅れのある子には多方面から働きかけ、促していきます。これには保護者と我々保育教諭、看護師それに地域施設の連携と協力が欠かせません。少しでも不安を取り安心して子育てしていただく為には日々子ども達への観察は不可欠です。

私の場合は子どもの時から保育士になりたかったのですが両親が進学させてくれず一度道は断たれました。

他職種に就き結婚、子育てをするうちに保育士になりたく進学以外の受験という手段で夢を手に入れました。紆余曲折はありましたが、その経験が保護者さんの立場も理解出来る利点になり、ベテランと違った視点で子ども達を保育出来るメリットがあります。

どんな経験も無駄にはなりません。保育教諭には膨大な資料作成や計画もありますが今皆さんがしている学びが全て繋がります。

又、何度も受験したので子どもと受験したのも貴重な体験だったのでメリットでした。

赤ちゃんが走って「先生大好き♡」と言ってくれる成長を感じるのはこの仕事の醍醐味です。未来の賜物を育む仕事は大変ですがやりがいに満ちた仕事です。

清教学園の皆様は今からしっかり学び将来のビジョンをつかむ沢山の機会に恵まれています。どうかそれらを生かして自分の道を見つけてください。慌てず、憧れや夢と希望を大切に過ごしてください。その中できっと自分の信じられる道が見えてきます。

皆さんに輝く未来が訪れます様に。

